

■ 努力し続けてこそ… ■

腹を空かせた狐が歩いていると、たわわに実ったおいしそうな葡萄が枝から垂れている。が、爪先立ちしても、飛び跳ねても、高いところにあって手が届かない。しまいには「ふん、あんな葡萄、まだすっぱくて食べられやしない」と言って去る。イソップ寓話の1つである。

現代の高校生に対して、気になる文章を読んだ。お茶の水女子大の耳塚教授は高校3年生対象の調査で、「社会で成功するのに重要な要因は何か」と尋ね、①身分や家柄、②才能、③努力、④学歴、⑤運やチャンス、の5つから2つを選択させた。結果は、第1位「才能」、第2位「運やチャンス」、第3位「努力」で、「身分や家柄」「学歴」は少数派だった。

この質問は、世界青年意識調査でもしばしば使われ、才能と努力が上位に来るのは先進国共通の傾向だが、日本は身分や家柄と学歴が少なく、運やチャンスをあげる者が多いことが特異であるという。この結果をどう解釈すればいいのか。耳塚教授によれば、「才能と努力がものをいう社会観はあるが、一方で失敗したときに『運がなかった』と自分を傷つせずに済む思考様式でないか」とのことだ。「すっぱい葡萄」とどこか似ている。

GWが明けた。ほぼ同時に1学期中間試験の1週間前となる。GW中は多くの生徒が部活動に励んでいた。公式戦や練習試合なども多かった。果たして、部活動から勉強への切り替えはうまくいっているだろうか。試験勉強へ向かう前に、うまくいかないときの言い訳を準備しているような生徒はいないだろうか。

勉強にしろ、部活動にしろ、諦めずに地道に努力することだけが実力を向上させる。多くの先人たちは、全力で努力し続けることで道を切り拓いてきた。「凡事でも誰もできないくらいに積み重ねれば非凡になる」ことを、生徒には高校生活を通じて学んでほしい。

生まれや学歴で将来が決まってしまうてはたまらない。努力が認められる社会であってこそ人生は希望で満ちあふれる。「社会で成功する要因」の第1位に「努力」が燦然と輝くような意識の高校生を育てたい。